

MACF 礼拝説教要旨

2024 年 6 月 9 日

「恵みの中に置かれている祝福に目を留めよう」

ヘブライ人への手紙 10 章

19 それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。

20 イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。

21 更に、わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、

22 心は清められて、良心のとがめはなくなり、体は清い水で洗われています。

信頼しきって、真心から神に近づこうではありませんか。

23 約束してくださったのは真実な方なのですから、公に言い表した希望を揺るがぬようしっかり保ちましょう。

24 互いに愛と善行に励むように心がけ、

25 ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。

かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、

ますます励まし合おうではありませんか。

* * *

1) イエスの血による赦しと解放と自由

イエス様が十字架にかかったとき、神殿の垂れ幕が真っ二つに裂けたという記事がありました。あれは、私達が人間的な祭司の指導がなくても自由に神様の前に出ることができ、感謝、礼拝が可能になったという意味がありました。神様との交流が自由になっているということは大きな祝福です。

2) 神に近づけるという特権の重要性

罪が赦され、洗礼による洗いをうけ、キリストによって覆いが取りのけられているので安心して神様にどんなことでお伝えし、喜びも悲しみも不安も共有できるようになっている事を忘れないように。神様が私達と喜びを共有しようとし

神様のミッションを共有しようとして期待してくださっていることは祝福。

私達には、自分がやりたいと思うこととは別に「神様からの使命」「神様から託された役割」が

あるかもしれません。それは各自違うでしょうし、感じ方も異なっていると思います。

しかし、神様が自らに近づけてさとし、促し、使命を与えて神様のためのミッションへと駆り立ててくださることを決して無視してはならないと思います。

自由に活動できる時代にこれらの言葉はあまり響かないかもしれません。
また、さまざまなこんなや不安に直面している時、思い出すべき聖句です。
迫害、不安、病気、孤立などが身近にあるとき、ここにこそ希望をしっかりと
据えることによって信仰を維持することができ、祝福を受け取りながら前に進むことができる
ようになるのです。

3) 神への信頼、そして愛と善行と関わり(絆)

神様を信頼し、どんなことについても神様からの指示や助けを求めつつ
前向きに神の国を生きること。

その際、決して、自分ひとりだけでやっていけると思わないように！
ひとりで静まることは大事。一人で祈ることも大事。一人で決心することも大事。
でも、誰かと分かち合いながら生きる喜びも味わえないと歩みが止まる。
礼拝は喜びの共有の場。神の祝福を共有する場。
自分から関係を断ち切ったり、引きこもり状態にならないように注意することは重要。
そして、様々な人達に対して悪意ではなく、意地悪ではなく「愛と善行」を土台に
関わりを深めていくこと。悪意をいただかないで、前向きに愛の心で接することができますよう
に。

「励まし合う」という環境整備が必須。

友達は必ずしも大勢は必要ないかもしれません。慰めあえる、励まし合える数人いれば十分
なのかもしれないと感じることが多いです。

「いてくれてありがとう」を共有できる仲間がいるとうれしいですね。

パウロの言葉を心に留めましょう。ローマの信徒への手紙 14 章

15 あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでい
ません。食べ物の中で兄弟を滅ぼしてはなりません。キリストはその兄弟のために死んでく
ださったのです。16 ですから、あなたがたにとって善いことがそしりの種にならないようにし
なさい。17

キリストが死なれたほど、キリストに愛されているあなただからこそ「いてくれてありがとう」が
共通理解になればと心から思います。

* *

Youtube での MACF 礼拝映像は

<https://youtu.be/iX42s-sFN9I> です。

